

カリキュラムマップ：経済学専攻 博士課程後期課程

ディプロマ・ポリシー		
1	2	3
<p>(知識)経済学全般に関して問題を発見し、解決するために必要な高度な知識・技能を有しており、国際的かつ学際的に活躍するために必要な知識を修得している。</p> <p>(技能)常に経済に関連して解決すべき課題を発見し、他の研究者とこれらを協同して研究したり、後進の研究者を統率したりすることができる。誠意ある研究指導を行うにあたっては、自らの経験により培われた計画力、実行力を発揮し、研究者としての品位と倫理感、社会的弱者や異なる文化に対する理解と寛容も伝授することができる。</p>	<p>(判断力)理論経済学または応用経済学の分野において自ら発見した独創的かつ未開拓の課題を、高度に専門的な観点から多角的かつ批判的に考察することができる。</p> <p>(思考力)考察によって得られた知見は論理的に思考・考察されたものであり、結論に至るまで深い洞察力と見識に支えられた高い専門性と独自性のあるものである。</p> <p>(表現力)考察された理論的貢献や政策的含意を、学術論文・口頭発表・講演・講義などを通じて論理的に表現し、発信することができる。この際、聞き手の専門性や理解度に応じて、説明の方法を柔軟に換言することができる。</p>	<p>(建学の精神)経済学と国内外の経済情勢について幅広い関心と高い問題意識を有し、国際社会や地域社会における多様性を尊重し、東西文化への理解やその融合を常に意識する。多角的な視点から経済学および経済社会の問題の解決と多文化共生の実現に取り組むことができる。受容性と親和性をもって東西文化への理解や多文化共生を実践する。</p> <p>(教育の理念)多角的な視点から課題の発見と問題の解決に取り組む。責任感と計画性をもって指導的・先導的な役割を果たすことができる。</p> <p>(態度)研究者・研究指導者・専門的職業人として研究を推進するにあたり、倫理観・品位を保持し、自らの研究の成果を生かし、積極的に学術の振興と経済社会の改善に貢献することができる。</p>

NO	科目	開講期間	授業形態	DP1(1)	DP2(1)	DP3(1)
1	経済学研究指導Ⅰ（理論経済学）	通年	演習	○	○	○
2	経済学研究指導Ⅰ（経済史）	通年	演習	○	○	○
3	経済学研究指導Ⅰ（経済政策）	通年	演習	○	○	○
4	経済学研究指導Ⅰ（国際経済）	通年	演習	○	○	○
5	理論経済学ABC（ミクロ経済学研究）	通年	講義	○	○	○
6	経済史AB（日本経済史研究）	通年	講義	○	○	○
7	応用経済学ABC（公共経済研究）	通年	講義	○	○	○
8	応用経済学ABC（交通経済研究）	通年	講義	○	○	○
9	応用経済学ABC（国際経済研究）	通年	講義	○	○	○

カリキュラムマップ：経済学専攻 博士課程後期課程

			ディプロマ・ポリシー		
			1	2	3
			<p>(知識)経済学全般に関して問題を発見し、解決するために必要な高度な知識・技能を有しており、国際的かつ学際的に活躍するために必要な知識を修得している。</p> <p>(技能)常に経済に関連して解決すべき課題を発見し、他の研究者とこれらを協同して研究したり、後進の研究者を統率したりすることができる。誠意ある研究指導を行うにあたっては、自らの経験により培われた計画力、実行力を発揮し、研究者としての品位と倫理感、社会的弱者や異なる文化に対する理解と寛容も伝授することができる。</p>	<p>(判断力)理論経済学または応用経済学の分野において自ら発見した独創的かつ未開拓の課題を、高度に専門的な観点から多角的かつ批判的に考察することができる。</p> <p>(思考力)考察によって得られた知見は論理的に思考・考察されたものであり、結論に至るまで深い洞察力と見識に支えられた高い専門性と独自性のあるものである。</p> <p>(表現力)考察された理論的貢献や政策的含意を、学術論文・口頭発表・講演・講義などを通じて論理的に表現し、発信することができる。この際、聞き手の専門性や理解度に応じて、説明の方法を柔軟に換言することができる。</p>	<p>(建学の精神)経済学と国内外の経済情勢について幅広い関心と高い問題意識を有し、国際社会や地域社会における多様性を尊重し、東西文化への理解やその融合を常に意識する。多角的な視点から経済学および経済社会の問題の解決と多文化共生の実現に取り組むことができる。受容性と親和性をもって東西文化への理解や多文化共生を実践する。</p> <p>(教育の理念)多角的な視点から課題の発見と問題の解決に取り組む。責任感と計画性をもって指導的・先導的な役割を果たすことができる。</p> <p>(態度)研究者・研究指導者・専門的職業人として研究を推進するにあたり、倫理観・品位を保持し、自らの研究の成果を生かし、積極的に学術の振興と経済社会の改善に貢献することができる。</p>

NO	科目	開講期間	授業形態	DP1(1)	DP2(1)	DP3(1)
10	応用経済学ABC (資源経済研究)	通年	講義	○	○	○
11	応用経済学ABC (金融研究)	通年	講義	○	○	○
12	経済学研究指導Ⅱ (理論経済学)	通年	演習	○	○	○
13	経済学研究指導Ⅱ (経済史)	通年	演習	○	○	○
14	経済学研究指導Ⅱ (経済政策)	通年	演習	○	○	○
15	経済学研究指導Ⅱ (国際経済)	通年	演習	○	○	○
16	経済学研究指導Ⅲ (理論経済学)	通年	演習	○	○	○
17	経済学研究指導Ⅲ (経済史)	通年	演習	○	○	○
18	経済学研究指導Ⅲ (経済政策)	通年	演習	○	○	○

カリキュラムマップ：経済学専攻 博士課程後期課程

				ディプロマ・ポリシー		
				1	2	3
				<p>(知識)経済学全般に関して問題を発見し、解決するために必要な高度な知識・技能を有しており、国際的かつ学際的に活躍するために必要な知識を修得している。</p> <p>(技能)常に経済に関連して解決すべき課題を発見し、他の研究者とこれらを協同して研究したり、後進の研究者を統率したりすることができる。誠意ある研究指導を行うにあたっては、自らの経験により培われた計画力、実行力を発揮し、研究者としての品位と倫理感、社会的弱者や異なる文化に対する理解と寛容も伝授することができる。</p>	<p>(判断力)理論経済学または応用経済学の分野において自ら発見した独創的かつ未開拓の課題を、高度に専門的な観点から多角的かつ批判的に考察することができる。</p> <p>(思考力)考察によって得られた知見は論理的に思考・考察されたものであり、結論に至るまで深い洞察力と見識に支えられた高い専門性と独自性のあるものである。</p> <p>(表現力)考察された理論的貢献や政策的含意を、学術論文・口頭発表・講演・講義などを通じて論理的に表現し、発信することができる。この際、聞き手の専門性や理解度に応じて、説明の方法を柔軟に換言することができる。</p>	<p>(建学の精神)経済学と国内外の経済情勢について幅広い関心と高い問題意識を有し、国際社会や地域社会における多様性を尊重し、東西文化への理解やその融合を常に意識する。多角的な視点から経済学および経済社会の問題の解決と多文化共生の実現に取り組むことができる。受容性と親和性をもって東西文化への理解や多文化共生を実践する。</p> <p>(教育の理念)多角的な視点から課題の発見と問題の解決に取り組む。責任感と計画性をもって指導的・先導的な役割を果たすことができる。</p> <p>(態度)研究者・研究指導者・専門的職業人として研究を推進するにあたり、倫理観・品位を保持し、自らの研究の成果を生かし、積極的に学術の振興と経済社会の改善に貢献することができる。</p>
NO	科目	開講期間	授業形態	DP1(1)	DP2(1)	DP3(1)
19	経済学研究指導Ⅲ（国際経済）	通年	演習	○		○
20	経済学研究指導Ⅰ（社会保障）	通年	演習	○	○	○
21	経済学研究指導Ⅱ（社会保障）	通年	演習	○	○	○
22	経済学研究指導Ⅲ（社会保障）	通年	演習	○	○	○
23	理論経済学A B C（マクロ経済学研究）	通年	講義	○		○
24	経済史A B（西洋経済史研究）	通年	講義	○		○
25	応用経済学ABC（社会保障研究）	通年	講義	○	○	○
26	外国文献研究	通年	講義	○	○	○
27	経済学特殊講義A B	通年	講義	○	○	○